



為政大訓

令和6年11月17日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

政治は必ず国民への奉仕を自己とするものであり、自らの利益を追求することでない。これらが唯一国民の未来と生活を与えるのである。

公正無私な判断は、唯一その未来を可能とするものである。

清廉潔白な、自己は、唯一政治への参加を与えるものであり、真摯な国民との対話は、その共有する可能性と未来の実現を与えるものである。

政治の使命は、国民と国家へ未来を与えることであり、奪うことではないのである。これが至誠において為政に対することである。

より優れた博識と知識はそれに伴う現実を可能とするものであり、政治家に優れ、その理解や知識を要求されるものではない。

世界の進歩への参加は、決して追従でなく、自己の主体性における参加が唯一正しいのである。

政治家が有するのは、全ての国民の未来なのである。そこに政治家の使命が存在するのである。

正しい政治判断と行動が唯一正しい国家の未来を与えることができるのである。そして国民はそれに従うのである。

これらは政治家がその自覚と選択において新しい未来を実現できることを意味するものである。

それらが拡大すれば、世界の未来と非飛地への責任は自己の行動から始まることが理解できる。

新しい未来を与えるのは必ず政治家なのである。